

CASE REPORT 1

ゼメックスバスケットカテーテルNTの使用経験

鳥取赤十字病院 内科

堀江 聡先生 田中 久雄先生



はじめに

総胆管結石の採石時には、採石用バルーンあるいは従来の採石用バスケットでは採石に苦慮する症例も経験する。今回ゼメックスバスケットカテーテルNTが有用であった症例を経験し報告する。

症例 1

76歳、女性。腹痛を認め、当院へ救急搬送される。肝機能障害とCTにて総胆管結石を認め入院となる。ERCPを行い、総胆管内に9mm大の結石を2個認めた(図1)。ESTを施行後、ゼメックスバスケットカテーテルNT(NBWS8620S)を用い採石を行った。下方の結石はガイドワイヤーを挿入したまま、バスケットの出し入れ操作のみで採石され(図2)、上方の結石はガイドワイヤーをカテーテルシース内まで収納した上でのバスケットの回転操作にて容易にバスケット内へ取り込み(図3)、スムーズな採石が可能であった(図4)。



図1



図2



図3

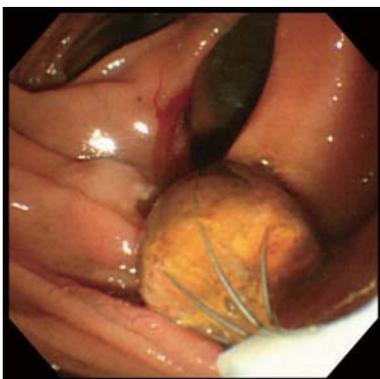


図4

- 図1 総胆管内には9mm大の結石を2個認める。
- 図2 ガイドワイヤーは挿入のまま、下方の結石をバスケットの出し入れ操作のみで採石した。
- 図3 上方の結石はバスケットの回転操作にてバスケット内へ取り込まれた。
- 図4 バスケット内に取り込んだ結石は、乳頭部より排出された。

症例2

89歳、女性。嘔吐を認め、当科を受診。肝機能障害とCTにて総胆管結石を認めため入院となる。ERCPを行い、総胆管内に18mm大の結石を1個認めた(図5)。ESTを施行後、ゼメックスクラッシャーカテーテル(LBGT-7320S/タイコ3線)にて碎石後(図6)、バルーンカテーテル(バルーン径20mm)にて採石を試みたが、総胆管径は28mmと著明に拡張しているため、結石は捉えることが出来なかった(図7)。そこでゼメックスバスケットカテーテルNT(NBWS8620S)を用いたところ、3個程に破碎された結石は容易にバスケット内へ捉えられ、スムーズに採石することが出来た(図8、9-1、9-2)。



図5



図6



図7



図8

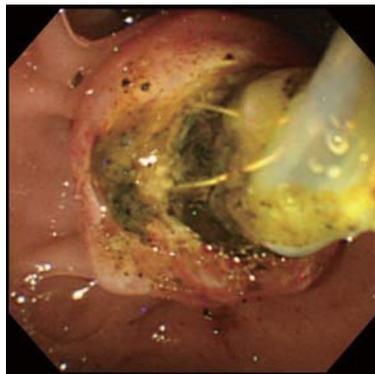


図9-1

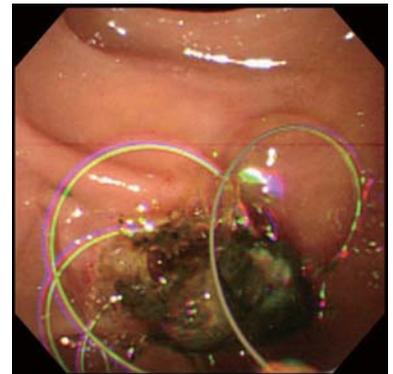


図9-2

- 図5 総胆管内には18mm大の結石を1個認める。総胆管径は28mmと著明な拡張を認めた。
- 図6 結石をゼメックスクラッシャーカテーテルにて碎石した。
- 図7 20mm径の採石用バルーンを用いたが、結石を捉えることは出来なかった。
- 図8 碎石後の複数の結石は、いずれもゼメックスバスケットカテーテルNTにて容易に捉えられた。
- 図9-1,2 バスケット内に取り込んだ結石は、乳頭部より排出された。

コメント

ゼメックスバスケットカテーテルNTは、その螺旋状の特徴的なバスケットの形状により、結石のスムーズかつ確実なバスケット内への取り込みが可能である。ガイドワイヤーの使用下に良好な挿入性があるとともに、症例1のようにガイドワイヤーを挿入したままでの採石も可能である。採石用バルーンカテーテルでは総胆管下端で結石のひっかかりにより採石に苦慮する場合や、症例2のように太い胆管径のため結石が捉えられない場合にも有用な処置具と考える。また、カテーテルのシース部もしっかりしており、操作を繰り返した後のカテーテル手元部での「へたれ感」も少なく、使用しやすい処置具と考える。

製造販売元

ゼオンメディカル株式会社

URL:<http://www.zeonmedical.co.jp>